

# 令和7年度 学校評価集計結果報告

## <報告の目的>

本報告は、令和7年度に実施した学校評価アンケート（保護者・教職員）の結果を基に、本校の教育活動の成果と課題を整理し、次年度の学校経営改善につなげることを目的とする。

## 1 学校評価の結果（概要）

- ・保護者評価平均：3.7
- ・教職員自己評価平均：3.7
- ・学校運営、授業づくり、安全管理について、全体として高い評価を得ている。

### （1）保護者による学校評価

全体として、授業づくり、生徒指導、安全管理、学校運営への信頼について高い評価が得られた。特に、個人情報の取扱い、会計処理、教材・教具の工夫、生徒指導・安全管理に関する項目は高水準であった。

一方で、交流及び共同学習、学校の取組の発信、感染症対応・緊急連絡の項目では、前年度よりわずかに数値が下がっており、教育活動の意図や成果をより分かりやすく伝えていく必要がある。

また、高等部の進路に関する項目では、一定の評価は得られているものの、自由記述からは「早い段階からの進路説明や情報提供を求める声」があり、4月に進路の資料やスケジュール表を提示し、充実した進路指導を図る。

### （2）教職員による自己評価

学校運営の基盤に関わる項目（安全管理、会計処理、外部対応、情報管理等）は高水準を維持しており、学校運営が安定していることが確認された。

一方で、教職員の連絡や協調、校内研修、学部間連携に関わる項目では低下傾向が見られ、学校全体としての共有や研究体制の再構築が意見として上がった。

## 2 学校評価の分析（主な視点）

### ① 授業づくり・授業改善

授業づくりについては、保護者の評価において教材・教具の工夫や分かりやすい授業に高い評価が寄せられ、個別の指導計画に基づいた授業実践が一定の成果を上げていることが確認された。

一方、教職員自己評価では、授業研究や校内研修に関する項目にやや低下傾向が見られ、授業改善の取組を学校全体として共有・発展させていく体制づくりが課題として示された。

次年度は、校内研究と授業づくりを関連させながら進めていく。

#### ② キャリア教育

地域協働菜園活動、交流及び共同学習、関係機関との連携などを通して、児童生徒の社会性や自己有用感の育成、キャリア教育の充実につながっている。また、校内の学習活動を生かし、進路指導と系統的なキャリア教育の充実を図っていく。

#### ③ 特別支援教育の専門性

特別支援教育の専門性については、保護者アンケートにおいて高い評価が寄せられており、本校教職員の専門性に対する信頼が確認された。一方、教職員の自己評価では、校内外研修や専門性向上に関する項目に低下傾向が見られ、学校課題や子どもの指導に関わる内容を求める声があった。次年度は、「専門性を高め合う体制」を進めながら授業改善を目指していく。

#### ④ 地域とともにある学校づくり

地域とともにある学校づくりについては、保護者・教職員ともに高い評価を得ており、本校の教育活動の強みとして成果が確認された。関係機関との連携を深め、様々な学習活動を通して、児童生徒の社会性や自己有用感の育成、キャリア教育の充実につながっている。

#### ⑤ インクルーシブ教育・地域連携

インクルーシブ教育の推進については、交流及び共同学習や地域協働活動を通して着実に実践が積み重ねられており、保護者・教職員ともに高い評価が寄せられた。これらの取組は、児童生徒の社会性の育成や自己有用感の向上、地域の障がい理解の促進につながっている。

#### ⑥ その他（生徒指導・安全管理・環境衛生）

保護者・教職員ともに高い評価を得ており、災害対応、感染症対策、いじめの早期発見、校内の環境整備等について、日常的な取組が一定の成果を上げている。さらに、感染発生時の対応について情報共有できる工夫をしていく。

### 3 まとめと今後の改善の方向

令和7年度学校評価から、本校の安定した学校運営と教育活動への信頼が確認された。

一方で、次の点が今後の改善事項として上げられる。

- ・校内研修及び研究内容の見直し
- ・キャリア教育・地域連携の取組の充実と学部間連携の強化
- ・安全管理に向けた危機管理マニュアルの見直しと改善

次年度は、学校評価の結果を学校経営改善に確実につなげ、教育の質の向上と児童生徒一人一人のよりよい成長を目指した学校づくりを推進していく。